

2022年度上半期における「変革 2027」の取組み

「鉄道開業150年」事業

2022年10月14日に、1872年(明治5年)に新橋と横浜間を結ぶ日本初の鉄道が開業してから150年を迎えました。

当社グループは、この「鉄道開業150年」を記念し、鉄道博物館や東京ステーションギャラリーでの特別企画展の開催、鉄道開業150年にちなんだ「記念Suica」、特別企画乗車券「鉄道開業150年記念JR東日本パス」の販売、記念列車の運行など、社会全体に「賑わい」を創出するさまざまな企画を実施しています。

「鉄道開業150年」事業を通して、「移動」がもたらす価値を高め、未来における「心豊かな生活」の実現につなげていきます。



■鉄道開業150周年 記念Suica

ワーケーションの推進

2022年7月1日から、ワーケーション推進の取組みとして「JRE Workation Pass」の発売を企業向けに開始しました。

新幹線・宿泊・ワークスペースが繰り返し利用でき、有識者講演などもセットになった商品です。また、ご購入いただいた企業と共同でマーケティング調査を実施、データを活用することにより、より多くの企業へのワーケーションの導入・利用促進に向けたサポートを行っていきます。

時間と場所にとらわれない新しい働き方・暮らし方である「ワーケーション」の推進により、企業における人的資本経営の推進、分散型社会の実現や関係人口創出を通して、企業・人・地域社会の「Well-being」の向上に取り組めます。



■ワーケーションの推進

東北地方における食品リサイクル発電プラント本格稼働開始

2022年5月から、(株)東北バイオフードリサイクルが仙台市において、食品リサイクル発電プラントを本格的に稼働開始しました。

(株)東北バイオフードリサイクルは、当社グループとJ&T環境(株)、東京ガス(株)で共同設立した会社です。仙台駅を中心とした駅ビル、エキナカをはじめ、仙台市内、宮城県、近県の事業者が排出する食品廃棄物(日量40t)を微生物により発酵させ、発生するメタンガスを燃料にして発電を行います。発電出力は780kW、年間想定発電量は約6,500MWh(一般家庭の使用電力量の約1,500世帯分)、CO₂削減効果は約3,000t-CO₂です。

また、食品廃棄物の処理過程で生じた発酵残渣の肥料化・近隣農地等での利活用をめざすなど、地域経済・社会の持続的発展と環境保全の両立に貢献していきます。



■東北バイオフードリサイクル仙台工場

山手線の営業列車での自動運転をめざした実証運転

2022年10月11日から、山手線全線においてお客さまが乗車している通常の営業列車(E235系2編成)を使用して、自動運転をめざした実証運転を開始しました。

当社は、グループ経営ビジョン「変革 2027」に掲げる「ドライバレス運転」の実現のため、ATO(自動列車運転装置)の開発を進めており、2018年度から山手線で試験を行ってききました。

次の世代も安全で安心してご利用いただける輸送サービスを創り出すため、今後2028年頃までのATO導入をめざすとともに、将来のドライバレス運転の実現をめざした開発を進めていきます。



■山手線E235系の自動運転を目指した実証運転

シンガポールで駅商業ゾーンに「STELLAR@TE2」が第一期開業

2022年7月1日に、シンガポールのトムソン・イーストコースト線のウッドランズ駅において、「STELLAR@TE2」が開業しました。

JR東日本東南アジア事業開発が参画する現地合弁会社(Stellar SG-JP Retail Private Limited)と共同でエキナカ商業開発にあたってきました。現在は第一期開業(16店舗)で、2022年中の全面開業に向けて準備を進めていきます。

「STELLAR@TE2」では、当社が持つエキナカ開発のノウハウを活かし、地域と共に生きる商業施設をめざします。



■ウッドランズ駅商業施設「STELLAR@TE2」

只見線全線運転再開

2022年10月1日から、只見線が約11年ぶりに全線で運転再開しました。

只見線は2011年7月の新潟・福島豪雨により甚大な被害を受け、会津川口～只見間で運転を見合わせていましたが、2017年6月に福島県と当社で、「只見線(会津川口～只見間)の鉄道復旧に関する基本合意書及び覚書」を締結し、復旧工事を進めてきました。

全線運転再開にあたっては、旅行商品等の販売を行い、再開当日には地元の皆さまにもご出席いただいて出発式を開催しました。



■只見線を走行する列車